

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年7月10日（火） 午後7時～8時25分  
会 場 川崎会館（川崎自治会）  
天 気 晴れ

参加者 31人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆30年以内に大地震が来る確率として70%が出されている。この地域の指定避難所は葦原中学となっているが、震災時にあそこがどんな状況になるのか想定されているのか。液状化や浸水被害が大きい場合は公民館へと言われているが、市としては具体的にどんな対処方法を検討しているのか。

☆2010年作成のハザードマップ上で、この辺の地域については液状化ランクが一番下になっており、ほとんど心配なしとされている。第3ランクとなっているのは下福岡地域だが、そこでも可能性はやや低いという想定になっている。川崎地域は全体的に液状化の心配度合は低い地域となっている。水害の影響として荒川が決壊した場合についてこの地域は、50cm～1mの浸水予測が出ている。葦原中学校付近でも50cm未満。新河岸川の決壊が起こったとしても葦原中付近で50cm未満の浸水予測となっているが、想定外の事態が起こった際には公民館に避難いただくことになる。

避難所の話をしていただきたい。通常、皆さんの発想として、いざという時めざす場所は指定されている避難所に向かうことと思われるが、地震発生の時間や季節によって状況は様々だと思う。平日か土日か、昼か夜か深夜か、冬か夏か、などにより被害が違ってくる。冬の北風が吹いている夕食の支度時であれば火災が発生することが想定され、そんな時に指定避難所方面から煙が上がっていることもあるだろう。その時はそちらに行くのではなく、まずは近くの安全な場所に逃げて、自分の身を守って欲しい。とにかく生き残れる手段を考えて落ち着いてから避難所に行きたくて欲しい。それから、地域の人たちと力を合わせて救助活動など行っていただきたい。このことは、地域の会合などの際に繰り返し皆さんにお伝えいただき周知して欲しい。

◆一人暮らしの高齢者や障害者が家具などの転倒防止グッズを備えようとしても購入場所や設置方法もよく分からず大変なので、行政でPR、相談窓口などの支援をしてもらえないか。

☆「地域支え愛」という事業をNPO法人でやっているのだから、そのへんの活用も一つではないか。

◆道具を購入してきても付けられないのが現状。

☆何かしらの手立てを考えてみたい。

◆実際のところ、避難所にはどういう人がどの程度行くのかまったく把握ができておらず困っている。要援護者を助けるシステムなどもきちんとつくらないといけないと考えている。私自身としては、荒川の逆流などが起こった場合、葦原中学校は避難所としては使えない場所という認識を持っている。違う避難所を指定していただきたい気持ちであるが、特に高齢者や障がい者については公民館を指定避難場所としてしまった方が良いのではないか。この地域だけ公民館の表示があるので、特別に位置付けを見直してもらいたい。

☆3. 11の際には想定外の事態がたくさん起こった。荒川の逆流などについても国で今、想定される被害について見直しを図っている。それが12月か来年1月頃には分かる予定であるが、ふじみ野市としても調べられる範囲でなるべく多くの取り組みを行いたいと考えている。関越自動車道関連の橋脚や市内にかかる橋の状態について調べたところ問題は無かった。

皆さんのお話では、自宅に居られる状況での被災を想定なさっているようだが、どこにいてもどんな状況においても地震は起こり得る。まずは身近で安全な場所を見つけて身を守っていただくことがやはり大切である。

この地域については、要援護者として手を挙げていただいている方が9人いるが、その具体的な援護プランは個別に立てていただくことになっている。その中で先ほど出ていた避難場所を公民館にするという内容をプランニングしていただく方法もある。ただし、市としても現行の避難場所に係る地域指定的な考え方は外していきたいと考えている。

◆要援護者の支援者となっている方たちに普段からお願いしている事としては、何しろ自分の身の安全が第一なので、その人自体に助けに入ってくれとは依頼していない。援護者は、見守る人が普段、家の中のどの辺で寝ているのかなどの把握をきちんとしておいて、いざという時には救助者にそれを明確にお伝えできるようにしておくことが任務と考えている。それと、その人の安否の確認がポイントだとしている。

☆事情を詳しく伝えられる人という意味あいなのだろう。しかし、その人たちもいざと言うとき、地元にいるとは限らないところが難しいところである。

◆3. 11の時にも地元に住まない人がたくさんいたのが現実。ただ、あの時、家から出た方が安全なのか家の中にいた方が安全なのかと聞かれ困った経験がある。

☆細かな地域の事情を伝達できるシステムは整えておいていただきたい。

◆いかにこれまで地震に対する地域が薄かったのかと反省している。この地域は地震に対して安全な場所という決めつけが自分の中にあり、自覚が足りなかったと思うので、これから予定されている図上訓練などで、いかに皆さんに危険意識を理解してもらえることが大切だと思う。地域の皆さんと意思の疎通を図っていきたい。

☆その通りだと思う。完璧な防災計画を作っても事が起こった際は、なかなかその通りにはいかないもの。一人一人の意識の高まりが非常に重要だと考える。家屋の倒壊が死亡原因のトップだった阪神淡路大震災。津波という自然災害が死亡原因のトップだった東日本大震災、その他中越地震などあったが、その地域の状況に応じた対処方法がそれぞれにあると思うので、皆さんからの声も大切にしながら訓練等に活かしていきたい。

私自身もなるほどと思った事で、防災に係るトップセミナーで講師から言われた事として、目の前の人を一人の力で助けようとする前に、トップとして周囲の人を集めて冷静な指示を出し救助にあたるという事が重要なポイントであるということ。なるほどと思ったことである。

先ほど出ていた要援護者の関係について、救助されている旨を表すサインとして旗を立てる等いろいろな提案がなされているが、躊躇してしまうのは、留守の家に泥棒が侵入する恐れがあること。実際、被災地ではこの事態が多く起きているので、今後の課題であると思っている。

◆近所の人と話をしていると、指定避難場所である葦原中学には行かず、イトーヨーカドーに逃げると言っていた。私としては、まずは指定避難場所に集まっていたいただいたその後において、安全が確保できるイトーヨーカドー等に誘導するつもりだったが、このように個人個人が転々バラバラに自分の思うがままに逃げられてしまうと、状況が把握できずにその後の対処が非常に難しい。

☆距離的なことより、まず安全な場所へというお話を先ほどしたが、相当数そのような人はいるだろう。地域の中における安否確認の観点では難しい面があるとは思いますが、どこが安全な避難経路なのかも分からない中、まずは身を守ることで安全な場所に逃げるのが大切である。

地区の集合場所を定めることも12月2日に実施する訓練の趣旨でもある。そこで設置される地区対策本部と市の災害対策本部とが綿密な連携を図り、様々な事態に対応していくというしくみであるが、あくまでも指定避難所は危険を回避するために逃げ込む場所ではなく、自宅に帰ることのできない人が、暫くの間そこで生活をしていくという生活拠点である。帰宅できない人たちへの食糧支援として、一日二食をベースにし、市や県そして皆さんのご家庭でストックされた食糧も見込みながら、避難場所において供給していく予定。

◆大日本印刷や新日本無線では、劇薬を使用しているものと思うが、震災時にそれらが影響しないか心配している。行政として何らかの方策を考えているか。

☆なかなか行政と企業の関係は難しい。先頃実施した「はけ地区」のタウンミーティングでは、はけの自治会で企業側に直接申し入れ、説明を受けるとの話があった。危険物質は無いとの見解は行政として持ってはいるものの、調べてみる必要もあるだろう。

◆合併特例債が5年間延長されたことに伴い、ふじみ野市ならではの政策としてソフト事業の充実を図っていただきたい。加入率が落ち込んでいる自治会活動

の活性化などに切り込み、埼玉県一の暖かいふじみ野市をつくってもらいたい。

- ◆朝のあいさつ運動に関わり交通安全指導もやっているが、葦原中付近の公道が狭くて非常に危険である。加えて、渋滞もひどいため、住宅街が抜け道になってしまい、かなりなスピードで走っていく車が多々ある。とても危険なのでなんとかして欲しい。

☆私が市長に就任する前からの長年に渡る懸案事項であることはよく分かっている。頭にしっかり入れて何らかの方策に取り組みたいと考えている。

- ◆防災無線について、川越市の声は良く聞こえるが、肝心のふじみ野市の声がよく聞こえない。

☆早速明日にでも現地を確認させていただき、スピーカーの向きなどについて対処させていただく。向きによりかなり状況が変わることもある。また、9月12日の10時と10時30分に北朝鮮からの弾道ミサイル攻撃時などに情報を瞬時に伝達するシステムの試験放送があり、その時には10割の音量で流すので、聞こえるか確認して欲しい。